キャラクター名
文月 優夜

プレイヤー名

シンドローム	バロール バロール	ワークス	FHセルリーダーC	カヴァー	スーパーのイケメン店員
オプショナル		年齢	26	性別	男
覚醒	生誕	衝動	解放	初期侵食率	35 %
出自	母親不在	経験	伝説（FH表）	邂逅	愛情（※欲望表）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0		1			1
感覚	2		0			2
精神	4	1	0			5
社会	2		0			2

HP	27
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	3		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：	2		情報： FH	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
【StarDust】		0				＜黒星粉砕＞Lv3
【Das Lied der Dunkelheit】	ＲＣ	5r+3				＜C：バロール＞+＜黒の鉄槌＞+＜黒星の門＞
【Broken marionette】		0				＜迎撃する魔眼＞

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品（サングラス）	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
工作員	P	N		
文月 神夜（ふみつき じんや）	P 慈愛	N 悔悟		
堂 和由（※同卓者別PC）（部下）	P 信頼	N 不信感		
『神授の花束』（ミストラルブーケ）	P ●興味	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
黒星粉砕	2	4d10	メジャー	視界	範囲（選択）	自動	120%	
効果：他エフェクトと組み合わせ不可。対象に[Lv+5]D10点のHPダメージを与える。命中判定はなく、対象はリアクションを行えない。								
魔王の外套	1	5	マイナー	至近	自身	自動	120%	
効果：シーン間、自分が受ける（予定）のダメージを常に-[Lv*5+5]する。エフェクトを使用すると、バッドステータスの暴走を受ける。								
C：バロール	2	2	メジャー	-	-	対決		
効果： C-Lv（下限7）								
黒の鉄槌	7	1	メジャー	視界	-	対決		
効果： 攻撃力:+[Lv*2+2]の射撃攻撃。同エンゲージ不可								
黒星の門	2	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果： 同エンゲージ不可解消。組み合わせた判定ダイス+[Lv+1]								
L:迎撃する魔眼	2	7	オート	視界	単体	対決	リミット	
効果：前提：黒の鉄槌　リアクション直前に使用する。リアクションを放棄し、代わりに対象に《黒の鉄槌》飲みを使用した紗液攻撃を行う。この時の判定のC値を-Lv（下限7）する。この攻撃に対象はリアクションを取れない。								
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	至近	※	自動		
効果： ゲート作るよ！								
魔王の玉座	★		常時	至近	自身	自動		
効果： 浮いてるよ！								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

文月優夜（ふみつき-ゆうや）

"宵闇の地平線（セラータ・オリゾンテ）"のセルリーダー。
『愛を与え、愛を受ける』を理念に、部下たちにも『無用な殺生は禁止』を命じている。
曰く「殺しちゃったらもう愛を与えることも、受けることも出来ないからね」という。
愛する、愛されることを中心にしか考えていない。

彼が殺意を抱くのは、己を貶したモノが目の前に現れた時。
愛することは気分が悪い。愛されるなんて以ての外。FHセルリーダーだから。お前が嫌い。お前の部下が嫌い。
･･･などなど。地雷ワードはたくさんある。

父親が母親を殺し、あまつさえその左目と右手を移植して。
「ずっと一緒にいよう」なんて言いながら、母の骨を口にして。
どうしてあんな奴が、あんな、奴が、僕の父親なのか。わからない。
殺さなきゃ。アレは殺さなきゃ。母さんのいる天国から遠ざけなきゃ。
アレは地獄に落とさないと。アレを地獄に落とさないと。

そう思っていたのに。
気づけば僕は、父親に、部下に助けられて。
僕がやっていたことは、全て間違いだったと気づかされたんだ。